

別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	平福記念美術館 常設・企画展示費				
担 当 課 係 名	平福記念美術館 課		係	作成者	田口歌子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護			
	主要施策	芸術文化団体の振興			100
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	6 目 美術館費	
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市立角館町平福記念美術館条例第169号第15条の規定に基づく				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	県内外の方々、市民の皆様には美術作品を鑑賞していただく。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市の歴史的・文化的な風土を象徴の一環として平福穂庵・百穂父子や小田野直武を始めとする、郷土ゆかりの画人たちの顕彰を目的としてより多くの方々に美術作品を鑑賞していただけるよう企画展に努める。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	平成20年度としては、常設展通年に加え、地元出身作家伊藤榮治回顧展、没後20年田口秋魚展、没後80年倉田松涛展、ぶなの会展を開催予定。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
	活動指標	年間入館者数	人	18,369	15,896	
効果	成果指標	年間観覧料	円	3,268	2,941	
		H18年没後45年寺澤孝太郎展時の観覧人数	人	2,773		
		H19年生誕130年平福百穂とアララギ展時の観覧人数	人		2,891	
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			1,603	2,423	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				
		県 支 出 金				
		地 方 債				
		そ の 他		1,766	2,253	
		一 般 財 源		△ 163	170	
	人 件 費 (B)		—	11,780	12,107	
	職 員 数		—	1.5	1.5	
	職 員 平 均 人 件 費		—	7,853	8,071	
	(A) + (B) 投下コスト		—	13,383	14,530	
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	729	914	
			—	4,095	4,940	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	420	463	

【事務事業の今までの成果】

毎年度、常設・企画展示は年六回を目標にテーマに沿って、館鑑品、借用作品で展示替えを行い、芸術文化の振興と向上に向けて運営している。特にH19年度には平福百穂生誕130年と美術館開館20年を記念して「平福百穂とアララギ展」を開催。宮内庁より六曲一双の屏風「玉柏」を借用し、角館で初公開。来館者に喜ばれた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	近年、文化施設の入場者数は軒並み減少傾向にあり、美術館も例外ではない。そのような状況にあって興行的傾向を強めることで、多くの入場者を獲得する方法もあるが、美術館の本来あるべき姿を追求し、なおかつ内容のある多様な展覧会を企画、実施している美術館が増えている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	常設展は、年間を通じて同じ作品が展示されているとされている面があるので、展示替えの予告を明確にして、事前の広報を行い観覧者の増加につなげる。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B	A 現状のまま継続（実施）	近代日本画の巨匠といわれる平福穂庵・百穂父子に由来している当館では、それとともに日本の曙光といわれる小田野直武や穂庵・百穂門下をはじめ多くの郷土画人を顕彰しております。また、現役作家やこれからの若い人たちにも発表の場として活用していただく場として必要である。
	B 見直しの上で継続（実施）	
	C 大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

市民及び観光客のニーズ、学術的動向を踏まえ、魅力ある質の高い常設展・企画展を実施する。展示にあたっては、財政事情もあり収蔵作品が少なく現在も多くは借用作品で補っているが、今後とも他市の美術館及び他の関連施設と密に連携し、館の特色を十分に発揮した展示とするとともに、美術に関する理解の促進に寄与できるような展示をおこなう。また、積極的にメディアを活用し広報活動を行い、入館者の増加を図る。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B	市民及び社会のニーズに応えた、魅力ある質の高い常設展・企画展を実施し、メディアを活用した広報活動を行い、事業の推進に努めていただきたい。。

一次評価診断図

